

大学教育再生加速プログラム(AP) 事後評価結果

整理番号	43	大学等	東京農工大学
テーマ	テーマⅢ（高大接続）		

（「大学教育再生加速プログラム委員会」による評価）

【総括評価】

A：計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。

【コメント】

大学改革の加速については、①IGSプログラム（以下、「IGS」という）の取組を参考に、平成30年度から他大学と協働の「文理協働型グローバルスクール」、JSTグローバルサイエンスキャンパスの「GIYSEプログラム」の事業が開始されたこと②IGSで開発したルーブリックとポートフォリオシステムを利用し、高校生が多面的評価における自己評価、活動の客観評価を可能にしたこと③IGSで開発したキャリア教育科目（選択科目）が全学展開され、新生の約35%が履修する人気科目になり、高大連携教室で主体的に学ぶ姿勢を身に付けた受講生を大学教育にスムーズにつなぐ役割を果たしていることの3点は、IGSの成果が大学全体に波及していることの表れであり、十分評価できる。また、IGSが結果的に特別入試の募集定員増加につながってきている点も評価でき、今後、更に入試改革が進められることが期待される。

事業の具体的な取組の進捗状況については、高大接続の強化のため、東京都教育委員会との連携、高校生の個別研究活動を受け入れる連携協定、高校の科学活動・進路指導の支援に取り組み、いずれも質的・量的におおむね目標に到達している点は十分評価できる。また、必須指標である「高校関係者との意見交換の実施数」が令和元年度の目標値を大きく上回っていること、「高大連携協議会」については事業開始年度から累計で12回開催していること、さらに高校教員向けの説明会・意見交換会については令和元年度には当該大学2キャンパスに加え全国9会場で開催され、合計で175名の高校教員が参加したことも評価できる。これらの取組は、補助期間終了後も継続する予定とされている。一方で、IGS受講生の当該大学合格者数は年度によって差があることから、安定的に確保できるよう特に努めることが期待される。

事業の定着に向けた実施体制及び継続のための取組状況については、「高大連絡協議会」と高校関係者を含む「外部評価委員会」が事業開始時から評価組織としての役割を担っていることから、評価体制は整備されていると言える。ただし、この2組織から事業実施の現状に対して計画修正等の指摘は無いとされていることから、評価体制が実際に機能しているかについては留意が必要である。高大連携教室の運営に関するノウハウの蓄積やパッケージ化により業務負荷の軽減がなされていることから、補助期間終了後の事業継続が可能な状態となっている点は十分評価できる。一方で、今後発展的な事業実施のための資金確保という点では十分とは言えず、当該大学の将来ビジョンに基づき本事業を今後どう発展させ、そのための資金をどう確保するか、更に検討・計画・実施することが期待される。

事業成果の普及については、テーマⅢ（入試改革・高大接続）の幹事校として各種の企画を主導し、選定8大学の取組を発信したことは高く評価できる。一方で、先駆的なモデルとして高等教育機関全体に波及させるための具体的な手法を新たに開発したか、高い計画性を持って実施したか、という観点では十分ではなかった。今後、波及のための計画立案に取り組み、高等教育界に大きなインパクトを与えていくことが期待される。